

「戦争への道は歩まない」 みやぎ女性のつどい 2023

2023 4月1日(土)14:30~16:30

エル・パーク仙台 5F セミナーホール

青葉区一番町 4-11-1 141ビル・三越定禅寺通り館 5F

参加費
500円

感染予防にご協力ください

男女を問わずどなたでもご参加ください

講演

半田 滋 氏

どうなる、どうする 専守防衛
～敵基地攻撃能力保有と日米一体化

PROFILE

1955年(昭和30)年生まれ。防衛ジャーナリスト。元東京新聞論説兼編集委員。獨協大学非常勤講師。法政大学兼任講師。92年より防衛庁取材を担当している。2007年、東京新聞・中日新聞連載の「新防人考」で第13回平和・協同ジャーナリスト基金賞(大賞)を受賞。著書多数。



日本国憲法は、殺し、殺される戦争をこの世界から根絶させるために、日本が率先して「戦争はしない、武器は持たない」と世界に約束しています。

2022年12月16日、岸田政権は安保3文書の改訂を閣議決定。先制攻撃を可能にする「敵基地攻撃能力の保有」(反撃能力)を盛り込みました。

戦後、安全保障の基軸としてきた「専守防衛」からの大転換です。

また、これまで安保条約の下、日米は盾と矛の役割を分担してきましたが、この改訂によって、日本はアメリカの盾とも矛ともなって戦う、つまりアメリカの行う戦争に日本も参加することになります。明らかな憲法違反です。

岸田首相は軍事費の二倍化も表明しています。これだけ国民の暮らしが追い詰められ、また国債が1000兆円を超えるという日本経済の現状からは、とても国力に見合う話ではありません。

軍拡路線をひた走る岸田政権の安保政策の大転換は、日本をどこへ導くことになるのか、近隣諸国との果てしない軍拡競争は何をもたらすのでしょうか。

ご一緒に学びあい、「戦争への道は歩まない」決意を確かめ合いたいと思います。